

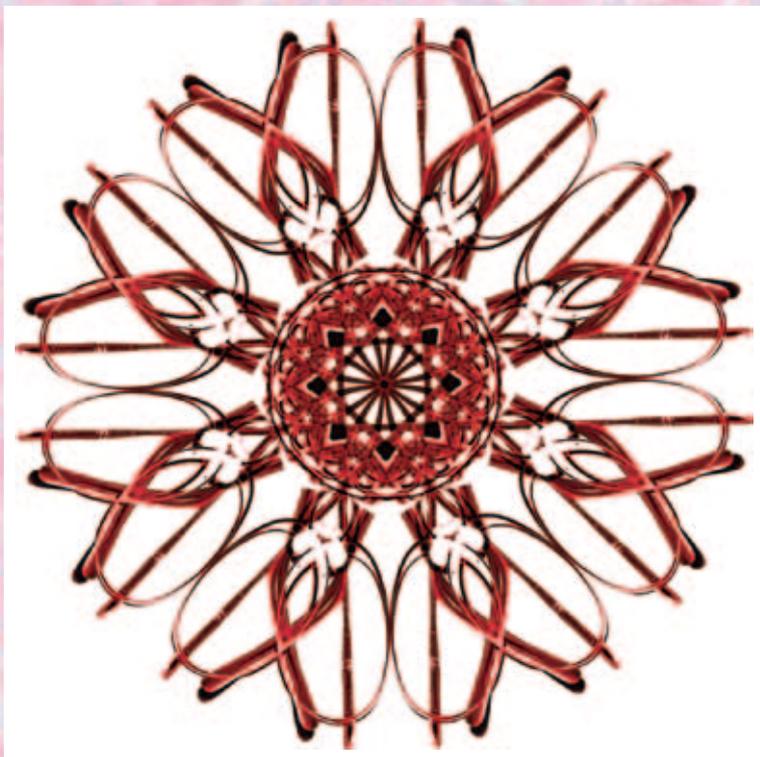
3 2011
March

弘前大学

学園だより

題字：遠藤正彦 学長

VOL. 170



「眼鏡の回転対称」 制作 教育学部学生 高橋かおり

I 巻頭言 ————— 2

弘前大学長 **遠藤正彦**

II 特集 卒業・修了・退職にあたって— 4

人文学部・人文科学研究科
教育学部・教育学研究科
医学部医学科・医学研究科
医学部保健学科・保健学研究科
理工学部・理工学研究科
農学生命科学部・農学生命科学研究科
附属病院

III 研究室紹介 ————— 19

IV けいじばんコーナー ————— 22

V 編集後記 ————— 26

特集

特集 卒業・修了・退職にあたって



I 巻頭言

学生の皆さん、卒業・修了 おめでとうございます



弘前大学長
遠藤正彦

この3月晴れて本学を卒業される皆さん、そして大学院を修了される皆さん、卒業または修了、誠におめでとうございます。これまでの皆さんの勉学の積み重ねの成果です。そして、本学を卒業すると同時に、皆さんの新しい人生が開かれます。これからの皆さんの発展を期待しています。

皆さんの本学への入学当時のことを思い浮かべて下さい。全国の国立大学が国立大学法人化され、本学はその対応に追われていたと皆さんは感じていたでしょう。しかし、今卒業の段を迎えてみると、皆さんは、大学が言葉通り日進月歩の変化をしていたと感じているかも知れません。

毎年、講義のあり方が少しずつ変わってきました。校舎の耐震改修が常にどこかで行われていました。授業に差しさわりがあったのは確かでしたが、校舎が見違えるようになっていくのも確かでした。キャンパスの整備も進みました。夜のとばりのおりたキャンパスで、そこに一列に並んだ街灯の下を皆さんが仲間と話し合いながら歩いている姿を見ると、「ああ、これが弘前大学だな」と思います。

理工学部二号館には日本一長いフーコーの振り子が設置されました。産学官連携のコラボ弘大が建築され、そこには日本一大きい液晶地球儀が設置されました。そのエントランスホールには、日本のトップクラスの芸術家・宮田亮平東京藝術大学長の金工作品「幸せのリング」が展示されました。日本一、日本のトップというのが、私達の心を豊かにしました。

コラボ弘大の中に開設された機器分析センターには、等しいクラスの大学にはないような機器がそろいました。青森市に青森キャンパスができて、そこに自然エネルギーに関して我国初の“北日本新エネルギー研究所”ができ

ました。ここにも我国に1・2台という機器が多数入りました。世界自然遺産白神の西目屋口に我国最大規模の自然観察園を持つ“白神自然環境研究所”が設置されました。被ばく医療を扱う我国初の“高度救命救急センター”ができました。そして合わせて、“被ばく医療総合研究所”ができました。

図書館の整備が進みました。その中から貴重な『津軽領元禄国絵図写』、太宰治の旧制弘高入学当時の未公開の写真、その他が発見されました。図書館には毎年、特に文系図書に特化した購入が進められ充実しました。更に、弘前大学の歴史を残すための史料館（仮称）開設の準備が進んでいます。

ずば抜けて高い評価を受けているのが、弘前大学出版会です。国立大学法人化の年に設立された出版会が、着実に出版を重ね、異例の早さで一般社団法人出版部協会の正式会員になりました。多くの大学が本学の出版会を参考にしています。皆さん方、学生の手になる本の出版もありました。これが大きな特徴です。

大学祭が学生・教職員の力を総合した総合文化祭として今回で10回目となり、今回は7,200名の市民も参加しました。学生の芸術活動発表の場としての弘前大学芸術祭も年毎に勢いを増していています。

体育、文化、研究に関して優れた活動をした学生を表彰する学生表彰も、度ごとに受賞者が増えています。

一昨年の弘前大学創立60周年記念式典は学生も参加の記念事業で、その学生参加の様子を表した写真集『新たな明日へ』が弘前大学出版会より出版されました。

こうした本学の大きな改革が目ざされ、一昨年から昨年春にかけてインターネット上の国公私立大学注目度ナンバーワンになりました。

学生の就職率は、数年前、統計のない医学部を除く人文学部、教育学部、理工学部、農学生命科学部は、国公私立大学の学部ごとの集計ですべてベストテン以内に入りました。以来、本学は高就職率を続けておりました。

大学入学志願者倍率も、少子化による全入時代による入学志願者減にもかかわらず志願者倍率を増やしている数少ない大学の一つです。

皆さん、皆さんの大学は皆さんが入学してからこの卒業までの間にこんなに変わってきました。もう本学は単なる地方の一大学ではなく、完成度の高い中規模総合大学に変わったのです。皆さんは、この弘前大学を卒業することに誇りと自信をお持ちでしょう。それが大事です。それが皆さんの支えとなって、これからの皆さんの活躍を押し進めるでしょう。

また、皆さんのこれからの活躍は本学の評価に積極的なプラスとなってはね返ってきます。母校の力となります。皆さんは、学外から弘前大学の発展に寄与することになります。皆さんは健康に留意の上、それぞれの道でがんばって下さい。

京都、奈良、金沢と並んで戦災に遭わなかった古い街並み、寺町、お城。東に八甲田、南に阿闍羅、西に白神・岩木山、北に梵珠山。ここが皆さんの学んだ弘前です。将来必ず誇りと思う弘前大学と、青春の抛り所としての弘前を思い出すでしょう。

弘前大学は皆さんを応援しています。皆さんの活躍にエールを送ります。



II 特集 卒業・修了・退職にあたって

学部、大学院を卒業、修了する代表、並びに24名の定年退職者のうち10名の方から寄稿いただきました。



経済システム講座
教授 **赤城国臣**

「若い人達へ」

『星の王子さま』で有名なサンテグジュペリに、『夜間飛行』という小説がある。その中で、航空輸送会社の支配人リヴィエールは、若い操縦士達に厳しい義務の遂行を求めている。それは、リヴィエールが人生の目的を自由の中にではなく、義務の甘受の中に見出すからである。そうしたリヴィエールの生き方に共感し、若い人達が義務を果たすことを通して、より強く生き、そ

してより高みに上って欲しいとひたすら望むものである。



人文社会科学部研究科
鄭 舒予

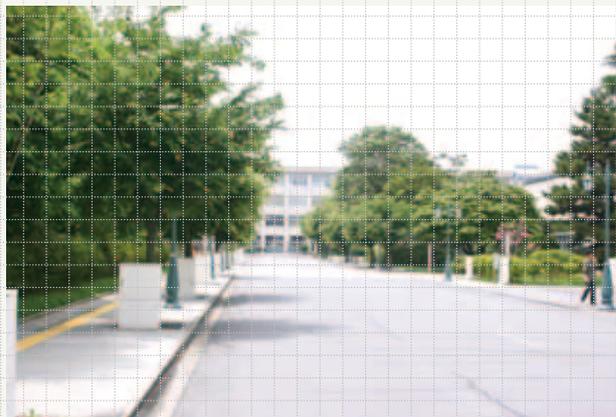
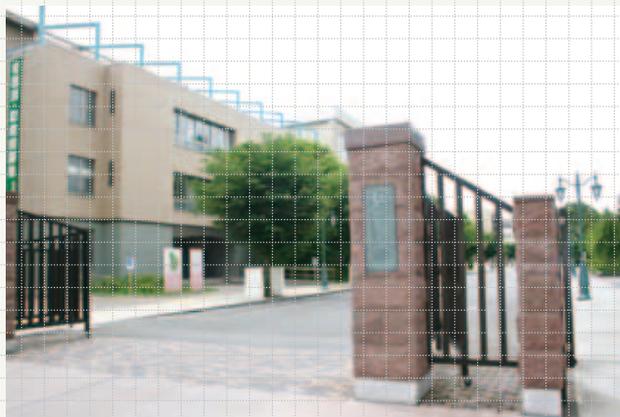
研究の喜び

大学院の時期も、それぞれ分岐点に出会った。大学1年時に法学コースを選んだことも、2年前に就職をやめて大学院に進学することを選んだことも、今考えると、本当に正しい選択だったと思う。興味を持つ学問について研究することに、何よりも喜びを感じるからである。

研究の喜びは、自分の仕事を形として残せることである。大学までは、教科書があり、同じ条件の下で競争する。その時期は、研究というよりも、良い成績表を求めている。研究は大きく異なる。大学の授業を基礎に、身につけ

た知識を利用し、関心のある課題を深く掘り下げて結論を出すことが研究である。その結論を求める過程はとても楽しくて、どのような結論を探し出したとしても、その探す過程にもきちんと意味がある。将来就職して、社会人になると、今のように純粋に学問を研究するチャンスと時間を持つことはできなくなるでしょう。充実した大学・大学院研究生生活を送ることができている今は、きっと良い思い出になるし、良い経験になると思う。

中国には、「違う道を選んで、違う人生を作る」という言葉がある。人生においては、時に分岐点に立つときがある。私が弘前大学で過ごした学部の時期も、





人間文化課程
猪股洋香

大学生生活を「人生の夏休み」と言うこと聞いたことがあります。大学生生活が終わろうとしている今、その意味がようやく分かりました。この四年間、私た

大切なこと

ちには無限の時間が与えられていて、この時間をどう過ごすかによって、学べることも無限に広がると実感しています。

初めて親元を離れて生活をする不安と、新しいスタートにワクワクした気持ちとともに初めて弘前にやって来たあの日から、もう四年が経とうとしています。当たり前のように思えることかもしれませんが、私はこの四年間で改めて「感謝の気持ち」「時間」「出会い」の大切さを学びました。一人暮らしをしたことで、両親のありがたみを深く感じました。もう二度と経験すること

のない大学生活という今、「今しかできないこと」にも沢山挑戦することができました。一生つながっていたいと思う、今までなら絶対に会えることのない地方から来た友人ができたことで、一つ一つの出会いをもっと大事にするようになりました。

本当に素敵な出会いに恵まれた四年間だったと心から思います。これまで色々な面で私を支えてくれた両親、先生方、先輩、後輩、友人、全ての方に感謝いたします。ありがとうございました。



経済経営課程
袁島聖人

弘前で過ごした4年間の大学生活で、私はたくさんの経験をさせていただきました。

アルバイトや野球サークルでの苦労や思い出をはじめ、留学生のサポート

素晴らしい経験

をするチューターや、優しい小谷田先生とのゼミでの活動、自分の母校に行き、弘前大学についての説明をするアンバサダーなど、学校に関するものがほとんどです。アンバサダーでは新聞社の取材も受けさせていただき、とても貴重なものとなりました。

そんな経験の中でも、一番の経験は公務員講座を受けていた一年間の過ごし方だと思います。勉強に行き詰まり、苦しんでいる時があれば、講座で知り合った一緒に努力している友達に励まされ、生協の職員さんや先生・サポーターの先輩にもいつも助けていただきました。その結果、無事に内定をいた

だくことが出来ました。その恩返しとして、いま私は講座のサポーターをしています。いろいろ失敗などもあり、迷惑もかけていますが、とてもいい経験を積んでいます。

この4年間で得た経験は、4月からの社会人になってからの糧になると思います。

しかし、この全ての経験は、周りの人たちの支えによって得たものだと思います。4年間のいい思い出を本当にありがとうございました。これから、この経験を活かして頑張っていきます。



学校教育教員養成課程

川村 吉

もう、こんな時期になってしまった。知らず知らずのうちに「卒業」の番である。いざ何を書けばよいか迷ってしまうが、これまでを振り返ることにしたい。この4年間は「学祭」と「実習」がその中心だったのかな、とゴールを間近にして思う。

1、2年の頃は生活の中心が「学祭」だった。これでもかというほど学祭のことばかり考えていたような気がする。実際に毎日忙しかったし大変なことも

弘前での4年

多々あったが、何より楽しかった。足繁く学生課に通ったのもいい思い出だ。学祭という“カタチ”になるまでの過程を知っていると、その終わりを告げる花火は何とも言えないものがある。

3年からは教育実習が始まった。以降、「実習」中心の毎日になる。集中実習では、授業づくりに苦戦し、担当のN先生と夜遅い時間まで「ああしよう、こうしよう」などと様々アイデアを出し合ったのが懐かしい。深夜まで黙々と教材作りをしたこともあった。後期火曜2コマの「社会科授業構成論Ⅰ」が楽しかったな。

4年になり、毎週1回、市内の公立中学校に学校サポーターとして配属された。1年間を通じての実習である。毎週木曜日が待ち遠しく、元気な中学生に会えるのが楽しみだった。そんな彼らの来年度の様子を直接みることで、きかないのは残念だが、きっと素晴らし

い最高学年になってくれるだろうと信じている。中学校の記憶も歳を重ねるごとに遠くなっていってしまうが、そこに1年だけでも居合わせることができ、嬉しく思う。

う〜ん…本当にあっという間だった。ふと気がついたら「卒業」の2文字。連日賑わう桜まつりにふと行き、ねぶたを身近に感じ、弘大祭で盛り上がり、降り積もった雪を踏みしめる—そんな四季を満喫できた弘前。この地に暮らして4年、やっぱり毎日楽しかった！というのも、出会った多くの方々のおかげである。この場を借りて、本当にありがとうございました。最後に、学園だよりのいちファンとして寄稿できたこと感謝申し上げます。きっと、あの平積みを待っている学生はまだまだいると思います…よ。



学校教育教員養成課程

齋藤美里

大学生活は長いようで、あっという間に過ぎ去っていくものである。

その中で得るものは人それぞれ異なるが、自分の通って来た道を振り返る

「大学で得たもの」

と様々なドラマがあったのではないだろうか。

私はこの4年間で“人とのつながり”が一番深く、大きく広がっていくのを感じている。大学は中学校や高校と違い、地元以外の他県の人と出会う事が多い。初めは、ぎこちなく接していても一緒に過ごすうちに、いつのまにか昔からの友人のような存在になっている。それは同学年の友人以外でも感じられるものだった。

先輩、後輩、先生…自分が嬉しい時、悲しい時、苦しい時、いつも傍にいて笑い合い、励まし合い“気持ち”を共有

していた。だから掛け替えのない時間と縁が生まれるのだと思う。

この4年間は楽しい事ばかりでは無く、つらい事もあったが、今があるのは一人では無かったからである。後輩たちも当たり前にある“時間”の大切さと、その意味を数年後に分かるだろう。だから仲間たちと“今”を大切に過ごして欲しいと思う。

大学生活はこれで終わってしまうが、ここで出会った“人とのつながり”は終わらない。これから社会に出ても人とのつながりを大切にしていきたいと思う。

弘前での4年



生涯教育課程
毛利まりえ

今、改めて自分の大学4年を振り返ると、まさに“あっという間”だったように感じます。特に最後の1年間は、光陰矢のごとし。瞬く間に過ぎていく

日々でした。

私の所属する学科は美術教育を主とするため、卒業には作品を提出することになっています。それまでまともに絵画制作を行ってこなかった私は、最後の1年に全力を注ぐことを決意しました。毎日学校に通い、毎日絵画制作。絵と向き合い、自分と向き合う時間が増え、私は徐々に“描くこと”にのめり込んでいきました。自分のために自分の求めることをし続ける毎日はとても新鮮で、私に“描くこと”の楽しさを再認識させてくれました。

もちろん思うようにならないことや

辛いこともたくさんありましたが、そんな日々があったからこそ、今感じている何にも代えがたい達成感を得ることが出来たのだと思います。自身の絵画制作を通して、一つのこと打ち込むことの厳しさと楽しさを学ぶことが出来たこと。それが4年間の一番の収穫だと思っています。

後輩のみなさん、大学4年間、特に“4年生”の1年間は思っているより短いです。悔いの残らないよう残りの大学生活を大いに満喫してください！





卒業にあたって

医学科

田名部 玲子

国試が終わり、卒業を待つ今、6年
間を振り返るとたくさんのことを思い
出します。部活で初めて試合に勝って
嬉しかったときのこと、試験に落ちて
へこんだ日々、友達と遊んだこと・飲
んだこと、励まし合いながら頑張った
BSLや国試勉強。何気ない日々のこ

とも、実習で出会った患者さんのこと
も、思い出せばきりがありません。も
ちろん、あのときももっとこうしてい
たら…と思うことも多々ありますが、こ
の6年間でたくさんの経験をして、多
くのことを学び、充実していたと実感
しています。特に、私はバドミントン
部を6年間続けてきて、部活での思い
出は多く、また私を成長させてくれま
した。バドミントン部に入ってよかつ
たと心から思います。

そんな充実した6年間を送れたのは、
先生方・先輩方・05M・後輩たち・6
年間で出会ったたくさんの方のおかげ
だと思っています。特に国試勉強中は
どれほどたくさんの方に支えてもらっ
ている、見守ってもらっているのかと
実感しました。これから卒業しても、
そういうつながりを大切に、頑張って
いきたいと思っています。6年間ありが
うございました。



6年間の財産



医学科

富本 和歩

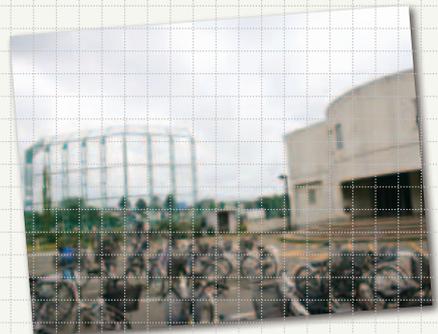
私の医学生生活は、あっという間の
6年でした。集大成である国家試験を
終えた今、大学構内の何気ない曲がり
角や教室、どこに目をやっても懐かし
く、その場所であった出来事を鮮明に

思い出せるのは、6年間とても濃い時
間を過ごせたという証のような気がし
ます。
国際医療研究会というサークルに出
会い、アクティブなメンバーに囲まれ
ながら様々な場面で自主性を求められ、
手作りのタイ・スタディーツアーに毎
年参画し、それまでの自分の視野が何
倍も拓けるような体験をすることがで
きました。これは私の人生にとって大
きな転機であり、貴重な財産です。特
にその中でも一番の経験だと感じるこ
とは、何事もまずやってみるという習
慣を身につけられたことだと思います。
自分で経験してみないと分からないこ

とは世の中に沢山あると思います。自
己責任もその分大きいですが、結果的
に遠回りだったとしても、それは巡り
巡っていつか自分の糧になることだと
信じています。

卒業後、医学生ではなく医師として
患者さんに関わることができるとい
うことがとても楽しみに感じます。6年
間で培ったチャレンジ精神を常に持っ
ていきたいと思っています。

最後になりましたが、医学の勉強か
ら課外活動に至るまでご指導くださ
った先生方、職員の方々には感謝して
もしきれません。本当にありがとうございました。





大学院保健学研究科
生体機能科学領域

櫻庭理絵

弘前大学で私は多くの出会いを経験しました。学部での4年間は、良い友達に恵まれ、また、素晴らしい先生方と出会い、将来の目指すべき道も見えてきました。大学院での2年間は研究

弘前大学での6年間 ~充実した大学院生活を振り返って~

と学業に専念すると共に、出来るだけ多くの経験をしようとするべく積極的に行動した事で、本当に人脈が広がりました。出来る事はなんでもやりました。多くのTAに携わって後輩の指導に明け暮れたり、学会発表で遠征したり、岩木で健康調査を手伝ったり…。2年の終わりには国際学会でバンラデシュに行きました。発展途上国であるバンラデシュですが、そこで出会ったベンガル人の大学生達は、みんな勉強熱心で、底抜けに親切で、生きる力にあふれていました。友達もでき、活気に満ちたバンラデシュの文化や歴史に触れ、本当に素晴らしい経験でし

た。大学院での充実した2年間、そして、さまざまな人達との出会いは人生の大きな財産です。

後輩のみなさんも、とにかくいろんな事に積極的にチャレンジしてください。すると、自分がこれからやるべき事がどんどん見えてきます。なんでもまずはやってみてください。そして、一瞬一瞬の出会いを大切に一生懸命大学生活を楽しんでください。

最後に、指導して下さった当研究室の稲葉孝志先生、田中謙次先輩をはじめ、先輩、後輩のみなさん、そして保健学科の先生方、本当にありがとうございました!!



検査技術科学専攻

若山亜由美

生まれ育った北海道函館市から電車で3時間。三味線のメロディーが流れる駅のホームに降り立ち、異文化を感じたのを今でも鮮明に覚えています。

「弘前大学の思い出」

あれから4年。今4年を回顧して思うのはただ一つ。「弘前大学に入学して本当によかった」

臨床検査技師免許取得を目指して入学した弘前大学で、同専攻の志を同じくした仲間と出会いました。レポート地獄などで大変な時に、みんなの頑張りに励まされ自分を奮い立たせることができました。また、体育会系の部への入部を断念し興味本位で入った大道芸サークルでは、ジャグリングにのめりこみ、楽しい大学生活を送ることができたとともに、他のサークルでは決してできない貴重な経験をするこ

ことができました。4年生で行った卒業研究は非常に楽しく、新たなことを知る喜びや考えることの楽しさを知りました。弘前でたくさんの人々に出会い、様々な考えに触れ、多くの経験をさせて頂き、人として成長できたと感じています。すっかり弘前に馴染んできた頃に卒業ということで、非常に寂しく思いますが、弘前で得た多くのことを生かしこれからも日々精進していきたいと考えています。

弘前で出会った全ての「人」に感謝したいです。ありがとうございました。

大学生活で得たもの

作業療法学専攻

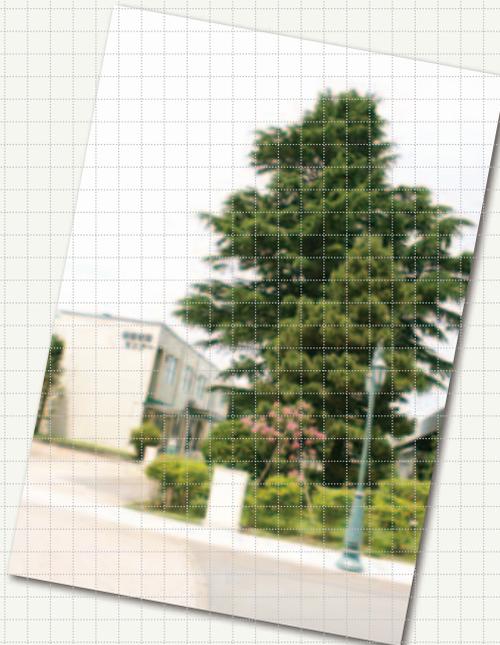
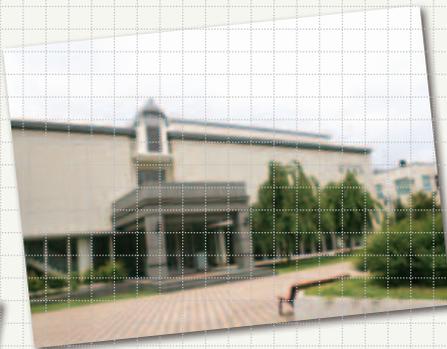
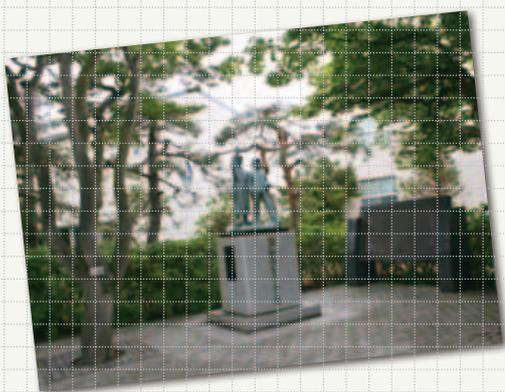
松田早紀

大学生活の4年間は、私にとって、この先の将来への礎を築くことが出来た貴重な時間でした。学んだ事は数多くありますが、これから社会に出るにあたりいつも心にとめておきたいことが二つあります。一つは志に向かって努力し続けることの大切さです。私が作業療法士を志したのは高校生の時です。引っ込み思案で人と話すのも苦手

だった私が、患者様と接しながらリハビリをする仕事に向いているとは自分でも思いませんでした。それでも、自分を変えたいと決心し受験を決めました。患者様と上手く話せなかったり、くじけそうになる度にこの時のことを思い出し、自分を鼓舞しました。授業や実習・ボランティアサークルでの活動など、振り返れば、立派な作業療法士になりたいという思いがあったからこそ乗り越えることができ、乗り越えたからこそ今の自分があると思います。卒業してからも、立派な作業療法士に

なる為、志をもち日々努力を積み重ねたいと思います。

そして二つ目は周りの人への感謝の気持ちを忘れないことです。自分と同じ志を持って一緒に悩み、笑い、泣いてくれた仲間、ご指導くださった先生方、そして私の行く道を信じて見守ってくれた家族がいたからこそこの大学生活だと思っています。卒業後も大変なことはたくさんあると思いますが、大学時代に学んだことをいつも心にとめ、目標に向けて努力し続けたいと思います。





理工学研究科
教授 倉坪茂彦

大学院修士課程を修了した1970年の春、まだ弘前駅も昭和2年の開業以来の建物でイトーヨーカドーなどなかった時代です。学園紛争の末期でしたが、まだ余塵がくすぶっており弘前大学も例外ではありませんでした。三島由紀夫が割腹自殺をしたのもこの年でした。

理学部数学科に着任して以来、理工学部数理システム科学科および数理科学科の教員として41年間、数学を通して教育・研究に従事してきました。その間付き合っていた学生諸君の数は1300人を少し上回ります。勤続30年

四一年間の教員生活

を過ぎた頃から2代にわたって、つまり父母とその子息に授業を聞いてもらったというケースが何件かありました。忘れがたい思い出です。

研究の面では、遅々として進まないものの解析的整数論の一つの分野である「格子点問題」と「多変数フーリエ級数の収束問題」の接点について研究するというテーマを掲げてやってきました。ここ5年くらい前からようやく焦点があうようになり、当初の予想を上回る結果が残せたことについては、つくづく60歳定年でなくよかったなあと感謝しております。1960年後半から70年前半にかけてチェコスロバキア（現チエコ）の数学者が「重み付き格子問題」について良い結果を出していました。フーリエ級数との関連を夢想しながら一生懸命論文をフォローしていたころがなつかしく思い出されます。

教育の面については、科目名は変わりましたが一貫して「実解析学及び同演習」（内容的にはルベグ測度論）を担当して来ました。しかし学生諸君からは

実に評判の悪い講義・演習だったことと思います。申し訳なく思っています。言い訳がましいですが、2年に1回の割合で開いている（私自身の）大学時代のクラス会の思い出話の中でも理解出来なかった科目の筆頭にあげられています。

社会面では学問の性質上貢献できることは限られているのですが、40代のころ、つまり1985年ころ青森県に突如として出現し、今もって影響を与え続けている「核燃問題」に首を突っ込む羽目になりました。大学以外の人たちと深く知り合いになれたことは何ものにも代え難い大きな体験でしたが、深傷も負いました。社会貢献といった場合、国・県などの政策遂行に肯定的に貢献した場合は、それなりに評価されているようですが、それに反対のベクトルは評価されることはありません。しかしこの体験については、いささかの感慨を持って思い出す今日この頃です。

挨拶はきらいだ

理工学研究科
准教授 小西栄一

私にも、ついに定年退職の日が来る。私が弘前大学に赴任してから30年を超えるが、定年退官（昔は“官”であった）はいつも見送る側であった。お世話になった先生も、顔も見たくない大嫌いな

先輩も後輩に席を譲る。皆、職場を去るにあたって挨拶をしてきた。したがって、先例に倣って私も挨拶しよう。だが、諸先輩が退職の際にした挨拶を私は身を入れて聞いた覚えはないし、その内容も全く覚えていない。ただ、挨拶したことが大事なのだろう。

朝の挨拶は「おはよう」と決まっているから問題はないが、文章にする挨拶は

気が重い。誰と誰に世話になったとか、どこが悪くて現状がこうなり、その改善策はこれだとか、書きたいことは沢山あるが、どれも中途半端になりそうである。そこで、すべてを省略して、「みなさん、さようなら。これまでありがとう。」と言って挨拶を終わる。

弘前大学を「卒業」して無職になる。私は老兵ではないが「老兵は退場」！



理工学研究科

准教授 **二ツ矢 昌夫**

高校のときは、山登りに夢中で、勉強にはあまり身が入らない日々を過ごしていました。勉強したいから大学進学という考えはなく、大学に入ればアルバイトをしながらでも山登りが続けられるというのが入学の動機でした。大学入学後も、山登り、そして、そのためのアルバイトと、勉強はあまり頭がない毎日でした。そのせいで単位取得も思わしくなく、4年になっても、真面目に、2、3年の講義を受けていました。数学教員の採用試験は受けていま

山、そして、これから

したが、山への未練もあり、冬休みを過ぎて自分の進路が定まらないでいると、定員割れの大学院進学をすすめるように助手のポストがあることを言われ、あまりよく考えないで助手になりました。助手に採用されたのは、2、3年の講義を受けていたからではないかと、今、思っています。助手になってから43年間、学生時代も含めると47年間の長きにわたり、学内外の人々には、お世話になり、また、ご指導していただきました。たいへん感謝しております。43年間のことを書くとアドレスになりそうなので、ひとつだけ。昨年の3月までの13年間、弘前大学山の会(山岳部OB会)の依頼で、山岳部の顧問(4代目)を引き受けました。顧問になる前までは、事故のとき呼び出され救出にいくぐらいでしたが、顧問は、下山が遅れたりしたときなどの心配があることがわかりました。学生時代とは大違いです。顧問のときには、新聞

沙汰になるような大きな事故もなく、部員たちと楽しくできたことは幸いでしたし、また、講義、セミナーなどになり、別のよい経験ができたと思います。

テニス、スキー、山など、いつも楽しんでいるからか、退職後のことを人からあまり聞かれたりしませんが、退職後のことをひとつ。私の専門は統計ですが、統計以外の分野からも、最近、データマイニングとかテキストマイニングという題名の本が出ています。マイニングの意味は、宝石を掘り当てるといった意味のようです。大量のデータという鉱山から宝石を探すのが目的のようです。インターネットは、データをあちこちから容易に得ることを可能にしています。これからは、ネットサーフィンでデータを、そして、データマイニングをやってみようかと思っています。大学にも面白いデータがたくさんあると思います。皆さんもマイニングいかがですか。



理工学研究科
知能システム工学専攻

三上 賢

大学院に進学してからの2年間、私はたくさんの失敗をしました。しかし、失敗をすることでたくさんの人に助けられ、支えられ、そして多くのことを学ぶことができました。

失敗から学べたこと

大学院1年の授業開始初日、私は自分の研究テーマである火災消火の実験をしていました。その実験中に消火対象の火災が急に大きくなり、火災報知機を鳴らしてしまうという大変な騒動を起こしてしまいました。その後、私は研究室の先生に呼ばれ、なぜ火災が急に大きくなったのかを問われましたが、わからないとしか答えませんでした。そのとき先生は「何かが起こるときには、そのことに対し必ず理由が存在する。その理由を考える癖をつけなさい。失敗するなどは言わない。失敗したことに対して必ず理由を考え、次は失敗しないように努力しなさい。」と

言ってくれました。その言葉で、失敗に落胆していた私は救われ、前向きになれました。それから、私は何事に対しても理由を考えて行動するようになりました。その癖をつけることで、多くの自分の至らなさに気づくことができました。

この他にも失敗から学んだことはたくさんあります。しかし、それは弘前大学の先生や先輩、友達、そして家族など周囲の人が支えてくれたおかげだと思っています。支えてくれた人たちへの感謝を忘れず、大学院で学んだことを社会で活かして、これから頑張っ



農学生命科学研究科
生物生産科学専攻

新堂さほり

卒業、といわれるとつい「あれ、もう？」と自分のことながら思ってしまいます。私の両親は孫娘(小4)を見て私の名前を呼びます。つまり、両親の中

6年間で学んだ最大のもの

では私は未だ小学生のイメージなのです(…ボケの兆しではないと思いたい)。そのくせ、「20を過ぎた娘が化粧もしないで…」などと小言を言います。複雑ですね。

そんな私ですが、親の脛をかじってられるのもあとほんのわずかとなりました。在学中、よく両親は私に訊ねました、「勉強しているか?ご飯はちゃんと食べているか?よく遊んでいるか?」と。実験をしたり、英語の論文に頭を悩まされたり、部活をしたり、アルバイトをしたり、友達と出かけたり

…。大したことではないですね、みんながやっていることです。けれど、両親にとって、私が楽しい学生生活を送っていることが何よりの喜びであり、糧であることをこの6年間で知りました。

そして、これからは私が聞く番なのです。「仕事は無理せずにやっているの?持病は大丈夫なの?休日はよく遊んでいるの?」感謝してもしても足りないほどのこの気持ちをゆっくり返していこうと思います。



応用生命工学科

本田拓也

入学当時を振り返ると親元を離れて暮らすことや新天地での生活に不安がありました。ですが、それ以上に大学での研究や新たな仲間との出会いなど

大学4年間で振り返って

に対する期待や希望を持っていたと思います。

そんな私もこの大学での4年間の学生生活のなかで、学科内やゼミでの研究だけでなく、アルバイトや学寮での生活を通して数多くの人間関係や新たな知見を得ることができました。このことだけではなく、大学生活で得たものは私の今後の人生を支えてくれると思います。また、このような人間関係を築くことができたのは弘前大学のおかげであると思っており、弘大生であることを誇りに思います。

最後に後輩たちへのメッセージとなりますが、大学生活において勉学はもちろん大事なことだと思いますが、アルバイトや部活・サークルなど、みなさんが夢中になれることを見つけることも必要だと思います。それらの活動を通して、きっとみなさんの今後の人生においてプラスとなるものが得られると思います。また、4年間は意外と短いものです。時間を無駄にしないで大学生活を充実したものにしてください。



生物機能科学科

坏 悟史

「大学生活の4年間は、本当にあっという間であった。」そう感じるのはやや自分の中で大学生活が楽しいものであった証拠であると思う。これだけ自

大学4年間

由きままに生きられる時間はもうないだろう。

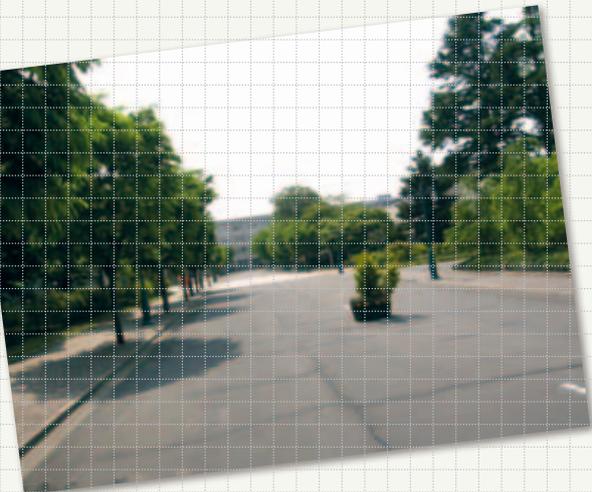
大学生生活を振り返ってみると、入学当時は、今までと全く違った土地での生活への不安が大きかったが、時間がたつにつれて様々な人と出会い、様々な話をし、感情を共有することによって、不安は大学生活を楽しむ感情に変わっていった。もちろん楽しいことだけではなく、辛い事や後悔する事もあったが、そのおかげで成長する事ができた。

私の大学生活の中で、学科の友人、

下宿の友人、サークルの友人、アルバイト先の友人等と過ごすそれぞれの時間は貴重なものであった。そこで、くだらない話やたまには真面目な話のできるかけがえのない仲間との出会いが私の支えになっていた。また、卒業後はみんなそれぞれの人生を歩むが、かけがえのない仲間と過ごした思い出を忘れることなく、次のステップへと向かっていきたい。

最後に、4年間過ごした弘前大学で出会った人に感謝の言葉を贈らせて頂く。

本当にありがとうございました。





副看護部長
安部よし子

この春で、先輩諸姉が歩んだ「看護の道」を私も歩み終える事になりました。

昭和49年入職、配属された旧第2内科では、寺沢川氾濫による水害と病棟閉鎖、アンギオ介助の真最中に起きた日本海中部地震、病院荒らしの常習犯を捕えた事など、つい昨日の事のように甦ってきます。また、平成元年から始まった病院再開発では、旧第3内科において、『平成の大移動』と名うって患者を無事移

「ありがとう」の5文字にこめて！

動させ、医局長と旧病棟の扉に鍵をかけた時、万感胸に迫るものがありました。新病棟は多床室が6人から4人になり空調が整備されました。今まで実施していた蒸発皿の水交換は姿を消しましたが、患者まわりの環境整備がなくなったわけではありません。ナイチンゲールが150年前に実践していた光、空気、音、清潔等に配慮することが患者の回復につながることを。また、小児科病棟配属中、人事交流で旭川医科大学病院に赴任した際は、入院している子供達からの手紙が何にも勝る「元気の素」でした。電算担当時代は、看護界にも押し寄せたIT化ならびに2000年問題等の対応が記憶に新しい所です。そして、毎年1月17日になると、阪神・淡路大震災の青森県救護班として、現地に赴き活動したことが思い出されます。また、JST研修が縁で

たくさんの弘前大学の仲間ができました。副部長になってからは、他職種とのチーム医療の中で看護の専門性とは何かについて自問自答の日々でした。

これからも、患者や家族の目線から、看護に求められているものを意識しつつ、「こんな患者さんに、こんな看護をしたらこうなった」という事例を積み重ね、弘大看護部から発信し続けてくださるようお願いします。

素晴らしい上司と素敵スタッフに支えられ、そして何よりも沢山の患者さんに助けられて退職を迎える事に「ありがとう」の気持ちで一杯です。

最後になりましたが、弘前大学のますますのご発展を心からお祈りいたします。

退職にあたって



看護部
大和田優子

長い年月、多くの方々にお世話になりながら勤務してまいりましたが、今年度末で定年退職を迎えることになりました。この間、幾多の出会いと別れがありましたが、今はいろいろなことを思い出しながら懐かしんでおります。私が入職した頃に、昨年取り壊された外来棟が完成したように記憶しています。その後、次々と古い病棟やいろいろな建物が取り壊され、計画的に建て替えられて来ました。現在、ほぼ完成し様変わりした弘前

大学医学部附属病院を見ながら、時の流れを感じています。

新人一年生として旧2内外来からスタートし、2年目から全科対象の差額病床のみの混合病棟、その後は3箇所の混合病棟や外来勤務を経験しました。この間、医療・看護は飛躍的に進歩しました。社会情勢に合わせ看護制度や看護教育も変化しました。しかし、何時、どのような時代であっても24時間常に患者に接し、いつでも一番身近にいて手を差し延べることができる職業であることには変わりないと誇りに思っています。

また、平成10年には、初代継続看護担当看護師長に任命され、継続看護室新設に関わったことは私にとって大きな財産となりました。その当時は、継続看護室・退院調整室など全国的にも設置している病院が少なく、当院看護

部の活動は先駆的でした。私もたったひとりで何をどのようにして行えばいいのか検討もつかず悩んだことも多々ありましたが、諸先生方・看護部の皆様方のご指導・ご協力で軌道に乗せ運営することができました。この時、皆様のおかげで診療奨励賞を頂きましたが、看護部全体で頂いた賞であると思っています。

弘前大学医学部附属病院看護部は、人々の健康と福祉に貢献することを理念とし、患者との相互理解をはかり、優しさと思いやりのある看護を提供することを一番に標榜しています。この理念の重みを日々自分に問い、看護を業とし長年勤務できたこと、また、定年退職を迎えられる喜びで一杯です。

最後に、私をこれまで支えてくださいました皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。



看護部
猪股壽子

中学生の頃入院し手術を受けた事で、医療に携わる職業を選び誰に勧められたわけでもなく就職した昭和40年代の弘大病院の中央玄関は、木造で広い廊下、天井が高く1本の長いコードが下がり、傘の下和風の明かりが燈されていて、各外来に通じる階段も広い木の年輪木目模様で昔の古い学校の校舎の様だった記憶があります。入職時は右も左もわからず、先輩看護師に丁寧に指導を受け、技術などは先輩の手技を参考に自分なりに練習して覚え、実践してきました。

私の歩んできた道を振り返って

現在のように実践マニュアル、基準や手順書も整っていなかったのですから…。毎年5月31日は弘前大学開学記念日で病院診療は休日、看護部自治会主催の青空研修会が行われ、子供達も参加し大型バス貸し切で日帰り旅行を楽しみ、3月には桜苑寮1階大広間でおひな祭りを盛大に行い、職場スタッフ、家族、自治会会員の皆様と一緒に時を過ごし、コミュニケーションを図ったものでした。この二つのイベントは私たち親子にとって忘れられない思い出です。また、昭和52年の水害で寺沢川が氾濫し、病院の機能が麻痺した時は、職員皆の団結で患者様に最小限の影響で済んだのが何よりでした。今後も防災、災害対策をしっかり考え行動できるように訓練していかなければいけないと肝に命じております。国立大学法人化、パソコンによる記録、7対1の看護体制、ナースキャップの廃止、高度救命センター始動、等…、

医療の高度化、看護を取り巻く環境はめまぐるしく変化しております。患者様からの「やまびこ」への苦情投書なども寄せられ、その都度適切に対処しながら、私たちの仕事の原点としての日常のマナー、患者接遇を考えながらの行動を身につけ、笑顔を忘れずにをモットーに、日々努力しなければと思う今日この頃です。縁あって結婚、出産、育児など、不規則な勤務体制であり、子供の参観日に出席できず、老いた義母に委ねた事、子供が自立し一段落した頃、家族の介護、看取りなど、数え切れない苦楽の思い出が脳裏に焼き付いております。周りの人の協力、職場での自分を取り巻く全ての人に支えられて今の自分があるのだと感謝でいっぱいです。今後は早寝、早起きを心がけ、自分の健康を維持しながら若々しく細く長く世の中を見て、楽しく過ごせる様に努力して行きたいと思っております。





看護部
相馬 博子

30有余年お世話になった弘前大学医学部附属病院をこの3月で退職することになりました。今更ながら、時間の流れの速さに驚いています。私が看護師として就職した昭和49年当時の病院は、1病棟、2病棟、3病棟の3病棟部門と外来部門のシンプルな構造でした。しかも、外来棟は就職した時期は鉄筋に変わっていましたが、学生時代は木造だったのを懐かしく思い出します。看護師としての第一歩は、1・2病棟6階からでした。

弘前大学を去るに当たって ～お世話になりました。ありがとうございました。～

その病棟は、主に個室の差額病床室で2床室が若干ある一般病棟とは異なる特殊な病棟でした。したがって、疾患別で入院が決定する病棟とは趣が異なり、各診療科の患者が入院する病棟でした。しかも、個室の特殊性から重症患者が多く、またこの土地の名前の知れた方々が数多く入院する病棟でした。当時の新人教育は、昨今のように体系化されていません。しかし、一人配属された新人看護師を、先輩看護師達は暖かく受け入れ、優しい眼差しで気にかけてくださいました。日々の看護実践でお手本を示してくれました。とりわけ、人生の大先輩である患者・家族への接遇の極意を社会人一年生の私に示してくれました。

あれから、13回の人事異動を経て今日ここに退職を迎えます。その間、病院も周辺の関連建物もすっかり様変わりし、就職当時の面影はなくなりました。

病棟は3棟から2棟へ改編され、平成元年には1病棟が2年後には2病棟が完成しました。そして、間を置いて中央診療棟が、さらに数年前に外来診療棟が改築され現在の形態が完成しました。在職期間の終盤は、看護師長として部署運営と人材育成に関わってきました。病棟看護の責任者として、病院の運営や建物の構造変化に伴い求められた病院目標・目的達成に幾らかでも貢献できたのか大いに疑問です。今真摯に思うことは、私の人材育成の基礎は、出会った上司や先輩看護師達からの有形無形の教えにあったことです。出会った皆様一人一人に感謝申し上げます。ありがとうございました。最後になりましたが、弘前大学のますますの発展と皆様のご多幸を祈念申し上げます。



看護部
大澤 豊

いよいよ定年退職を迎える日が近づいてきました。

思えば、東京の大学を卒業後に何のためらいもなく帰弘し、将来の目標も見出せないまま過ごしていた時に、看護師の道を紹介してくれた方がおり、弘前大学医療技術短期大学(現在の保健学科の前身)に入学し、昭和53年の春に弘前大学医学部附属病院に就職させていただきました。

退職を迎え、皆様に感謝

これまでに精神科の他、手術場、救急部、泌尿器科、歯科口腔外科での勤務を経験し、数え切れないほどの思い出が脳裏をよぎりますが、何と云っても個人的には、好きな精神科からスタートし、最後も精神科でゴールを迎えられたことで、とても恵まれた環境で仕事をさせていただいたと思っています。

不器用な自分のスタイルを起用させていただいて、何とか最後まで貫き通せたのも多くの皆様の気使いと見守り、そして支えがってのことと心から感謝しております。

ありがたいことに、昨年暮れに「医学教育等関係業務(看護関係)功労者」として文部科学大臣より表彰を受けました。皆様には十分な恩返しもできませんが、せめて私から皆様への感謝の記

念として一緒に喜んでいただければ幸いです。

また、大学病院には男性看護師の人数が、私の就職した頃より4倍(20名弱)近くも増えてきており、とても頼もしく感じております。女性の多く占める職場ですが、かけがいのない存在として感性を高めながら、これからも頑張ってもらいたいと思っています。皆様の気使いと温かい見守り、そして支えの程を、どうか若い彼らへよろしく願い致します。

最後に、弘前大学に勤務される皆様のご健康とご活躍を心からお祈りし、お別れしたいと思います。皆様と一緒に働けたことは一生忘れません。本当にお世話になりました。

お元気で。

思い出す人

医事課 課長補佐
岡崎耕衛

附属病院の仮設通路を苦しそうに歩いておられる患者さんの辛いお姿を拝見するにつけても、60歳を迎えた今日まで、大病をせずに「健康」という有難い宝物を持ち合わせたことに幸せというものをひしひしと感じています。

さて、2月になり、弘前市は築城400年のイベント控え、雪灯籠祭りにも趣向が凝らされているように聞いております。本学もこの祭りが始まった時、雪像造りに参加し多くの職員が寒さで縮かむ手にバケツやのみを持ち、暖を取るための休憩時間に出される豚汁を頼りに、教育学部の彫塑の先生の監修のもとに、いかにも弘前大学らしい芸術的な雪像を彫り出し、市民の前に披露したものでした。始めて挑む雪像に悪戦苦闘する中、とりわけ、一人の若いK事務官が真っ先にな

り、みんなをまとめながら、雪を貼ったり削ったり、苦勞に苦勞を重ねやっとのことで完成することができました。

しかし、この雪像造りを終えてから、K氏は体調を崩し、襲いかかる病魔と必死に闘い続けましたが、「ねがたのもんどりっこ」の余韻がさめやらない七日日の深更に息を引き取りました。K氏と本学職員でもあったK氏夫人とは、高校時代同じ教室で学んだ縁もあり、学内でも親しくしていただいたゆえに、その時の悲しみ、K氏の不遇に憤りさえも覚えませんでした。

それからおおよそ30年を経てK氏夫人の訃報が突然届きました。非報は俄には信じ難く何が彼女の身に起こったのだろうと、あれこれ思いを巡らしましたが、買い物先で突然倒れ不帰の人となったとのことでした。この拙稿を書いている今日が1周忌の命日ということにも何かしら因縁めいたものを感じます。

この二人にひきかえ、ろくに仕事もせずに、毎夜バーボンを片手に、ブルージーに、あるいはスウィングにジャズに酔い痴れ、一人悦に入っている自堕落な私が、俗に言う大過なく定年を迎えるということは、二人に対して申し訳なく、気恥ずかしい思いがします。

二人は、「あの世」とやらで、再び添い遂げ、私を見ながら「あの馬鹿、いつまでもくだらないことをしながら、毎日を飲んだくれているなあ。」と嘲笑っていることと思います。

二人の笑顔が何となく懐かしく思い出されます。

定年退職するにあたり、K氏ご夫妻の思いを胸に刻みながら、3月31日その日を迎えることにします。

末筆になりましたが、奉職以来40有余年弘前大学の多くの方々に、大変お世話になりました。紙面をお借りし心より御礼もうしあげます。



大学院理工学研究科 川上 淳 研究室

理工学部物質創成化学科

<http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~jun/jklab/jklab001.html>

① はじめに

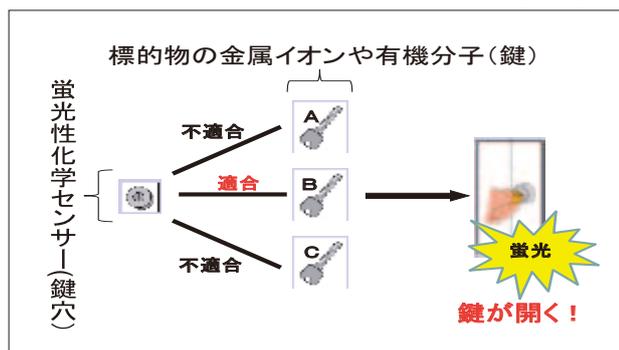
川上研究室は、理学部化学科有機化学講座、理工学部物質理工学科物質化学講座の流れをくむ研究室です。平成19年4月の理工学部の大学院部局化により、理工学研究科では講座制が廃止され、講座名はなくなりましたが、川上研究室は伊東俊司教授の主宰する伊東研究室と一体となり、大学院理工学研究科及び理工学部物質創成化学科の有機化学系の研究室として運営されています。また、この二つの研究室に同じく大学院理工学研究科の長岐正彦准教授の主宰する長岐研究室を加えて“分子材料化学研究センター”（平成20～22年度）を立ち上げ、新物質や新材料創成の教育研究拠点の形成を目指してきました。

今回は、川上研究室で現在行われている研究内容について紹介します。

② 蛍光性化学センサー

川上研究室では、有機化学・光化学・超分子化学をベースに、合成化学的手法を用いた機能性有機化合物の創出およびその機能開発に関する研究をおこなっています。

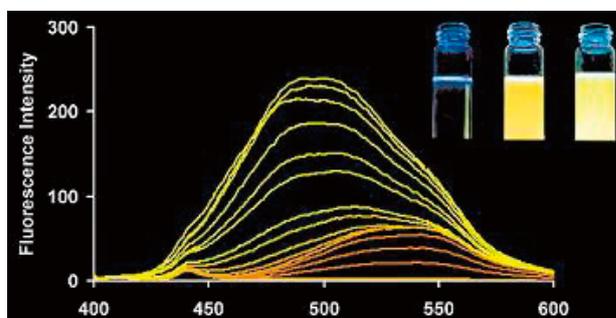
その中心となっているのが“蛍光性化学センサーの合成と応用”です。蛍光性化学センサー (fluorescent chemosensor) とは、感度のよい蛍光を用いて、ある特定の物質を選択的に認識 (検出) 可



能な機能性有機化合物のことです。例えば、蛍光性化学センサーを“鍵穴”、標的となる金属イオンや有機分子を“鍵”と見立てた場合、幾つかある鍵 (標的物) の中から適合する鍵を見つけ出すことで鍵が開く、つまり蛍光を発することになります。

蛍光性化学センサーは、環境中の有害物質の検出や、生体物質の機能解析の手段、即ち生体物質が“いつ”, “どこで”, “どのように”作用しているかを明らかにする蛍光イメージングプローブ (生体内蛍光性化学センサー) として、近年注目されています。

下図は、平成13～14年に文部科学省在外研究員としてアメリカのユタ州プロボにあるブリガム・ヤング大学留学中に、大環状化合物の研究で世界的に有名な J. S. Bradshaw 教授、R. M. Izatt 教授の研究グループの一員として研究をした時の、亜鉛イオン用蛍光性化学センサーの蛍光スペクトルです。



亜鉛イオン用蛍光性化学センサー
J. Kawakami, R. T. Bronson, G. Xue, J. S. Bradshaw, P B. Savage, and R. M. Izatt, *J. Supramolecular Chem.*, 1, 221 (2001).

この蛍光性化学センサーは亜鉛イオンが存在しないと蛍光を発しませんが (右上左のサンプル管)、亜鉛イオンが存在すると蛍光を発し、亜鉛イオンの濃度が濃くなると発光波長が短波長側にシフトすることもわかりました (右上中央及び右のサンプル管)。

蛍光性化学センサーの研究は、“あおもりー押し技術シーズ”として、平成19年8月に東奥日報朝刊でも取り上げて頂きました。

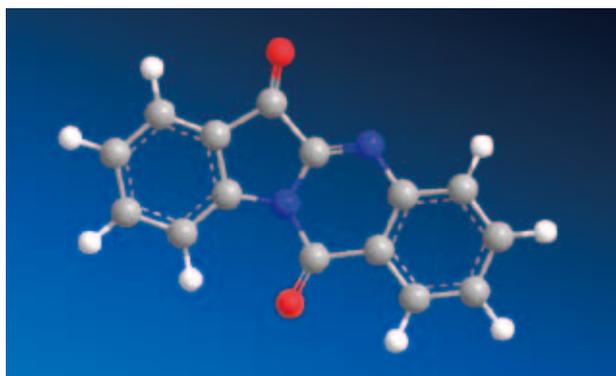
このように、当研究室では各種金属イオンを標的とした新規蛍光性化学センサーの合成とその応用に関する研究を、日夜行っています。



東奥日報平成19年8月30日朝刊

3 トリプタンスリン

トリプタンスリンは植物の藍から抽出される抗菌剤で、アトピー性皮膚炎の原因菌であるマラセチア・フルフル菌 (*M. furfur*) に対して、高い抗菌活性を示すことが本学教育学部の北原晴男教授らによって明らかにされました。



トリプタンスリンの構造

その後、本学医学研究科の花田勝美教授らは、トリプタンスリンを0.5%含む軟膏を作製し、臨床試験を行ったところ、1～2週間でマラセチア毛包炎(マラセチア菌によるニキビ)が消え、皮膚に対する刺激反応やアレルギー反応もなかったことを確認しました。更に、本学医学研究科の中根明夫教授らの研究により、トリプタンスリンは、ピアスなどの金属やゴムによるアレルギーである接触性皮膚炎(Ⅳ型アレルギー反応)に対して抑止効果もあることもわかってきました。これらのことから、トリプタンスリンはアトピー性皮膚炎の治療薬をはじめとする医薬品や化粧品としての利用が期待されている注目の物質です。

川上研究室では、前述の北原教授、中根教授との共同研究として、平成18年から天然からは得られない各種トリプタンスリン誘導体を化学合成し、抗菌性に対する構造活性相関等について調べてきました。また、平成20年から、本学医学研究科の瀬谷和彦助教との共同研究として8-メチルトリプタンスリンを用いた胚性癌腫細胞の拍動心筋様細胞への分化促進能に関する研究も行っています。これらの研究過程で、偶然トリプタンスリンの2-位にアミノ基を導入すると強い蛍光を発することを見出しました(特許出願中)。そこで、本来の専門である光化学の研究課題として、トリプタンスリンの蛍光試薬としての応用についての研究を開始しました。



2-アミノトリプタンスリン及びその誘導体の蛍光

現在は、平成22～24年度日本学術振興会科学研究費(基盤研究C「生体内金属イオン検出のための新規な蛍光共鳴エネルギー移動型化学センサーの開発」)を獲得し、可視領域に吸収・発光を示す2-アミノトリプタンスリンを用いた新規蛍光性化学センサーの合成を進めています。

以下の写真はコラボ弘大の理工学部フォトビジョン用にプロのカメラマンに撮って頂いた2-アミノトリプタンスリン及びその誘導体の蛍光の様子です。コラボ弘大1階で常時見られますので是非ご覧下さい。

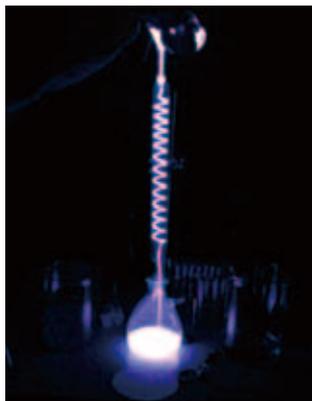
4 小中高生との化学実験

川上研究室は毎年、小学生、中学生、高校生を対象とした様々な科学実験イベントに参加しています。平成22年度は、8月6日の「化学への招待 弘前大学一日体験化学教室」、9月12日の「八戸北

高校 青森サイエンスキャンプ」、10月24日の「楽しい科学」で、多くの小中高生の皆さんと実験をすることができました。

実験内容ですが、「果物のおいを作る」と題して、カルボン酸とアルコールの酸触媒によるエステル化反応を用いて、酪酸等の耐えがたい“くさい”においのものが、とても良い果物のおい変わる様子を体験してもらいました。

また、「ルミノールを用いた発光反応」では、調製した2つの溶液を混ぜることで青白い発光(右の写真)が生じる様子を観察する他、溶液の一方を絵筆につけ、濾紙に絵や文字を書き、もう一方の溶液の入ったシャーレにその濾紙を浸すことで、ルミノール反応による“あぶりだし”も体験してもらいました。



これらのイベントでは、研究室所属の4年生と大学院生に実験補助員として小中高生と一緒に実験をしてもらっています。実験器具の使い方を教え、小中高生の抱く素朴な疑問に対して一つ一つ答えながら実験を行うことは、4年生や大学院生達にとっても大変貴重な経験となっているようです。¥目を輝かせながら実験をする小中高生を見ると、研究室の全員が初心に戻るこのことのできるよい機会でもあります。



「化学への招待」 弘前大学一日体験化学教室

5 おわりに

平成6年5月に当時の弘前大学理学部化学科有機

化学講座に助手として着任してから早いもので17年が経ちました。この間43名の卒業研究と19名の修士論文の研究指導をしてきましたが、卒業生、修了生が社会に出て、立派に活躍している姿を見るのは、この上なく嬉しいものです。

昨年の10月に、新郎・新婦が共に川上研究室出身者の結婚式が横浜駅近くの結婚式場で行われました(川上研究室出身者同士のカップル誕生第一号!)。披露宴に招かれ、光栄にも祝辞と乾杯の音頭を取らせて頂いたのですが、2人の姿を見ながら、これ迄の卒業生、修了生が大学又は大学院時代に一生懸命研究を頑張ってくれたおかげで現在の川上研究室があると改めて感謝の気持ちで一杯になりました。

これからも微力ですが、学生さん達と一緒に頑張っていきたいと思います。



平成21年度川上研究室卒業生と筆者(中)

PROFILE



川上 淳 (Jun Kawakami)

大学院理工学研究科 准教授
 東邦大学大学院理学研究科博士課程修了。博士(理学)。
 《所属学会》日本化学会、アメリカ化学会 他
 《現在の研究テーマ》蛍光性化学センサーの合成と応用。
 《趣味》家族旅行と愛犬との散歩。
 E-mail: jun@cc.hirosaki-u.ac.jp
 HP: <http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~jun/kawa00.html>

No	団体名	受賞理由
2	弘前大学 スティールパン部	・CD「スティールパンで聴くやすらぎのクラシック」オーマガトキを全国リリースし、メディアで取り上げられた。
3	弘前大学 津軽三味線サークル	・県内外で精力的に公演を行った。また、2008年の浜松市楽器博物館での公演の様子を収録したDVD「楽器の世界：津軽三味線」デジタルセンセーションが2011年1月リリースされた。
4	弘前大学グラスハープ ・アンサンブル	・コンサート活動とともに教育学部の「教育力向上プロジェクト」の一環として地域の学校に出向き、科学と芸術表現を統合した体験的な学習活動も展開を行った。また、日本テレビ系列「世界一のSHOWタイム」(2010.2.1)やNHK「お元気ですか日本列島」(2009.12.24)において活動の様子が全国放送されました。さらに2枚のCD「グラスハープで聴くやすらぎのクラシック」(2010.6)「グラスハープで聴くやすらぎのスノーフレイク」(2010.12)を全国リリースした。
5	人文学部森ゼミナール ・高島ゼミナール	・地域企業や公共団体との連携を通じて、地域活性化のために取り組みを進め、メディア等で取り上げられた。また、「ひろさきコミュニティビジネスフォーラム」において、学生がパネリストとして参加を要請された。このことも、彼らの取り組みが対外的にも高く評価された。

【個人】
課外活動で特に顕著な功績があった学生等
体育系課外活動

No	氏名	学部・学年	受賞理由
1	遠 沢 和 加	教育・4年	日本学生陸上競技個人選手権大会 女子やり投げ 第3位 東北地区大学総合体育大会 陸上競技 女子やり投げ 優勝 他
2	亀 田 亜 美	教育・3年	国民体育大会陸上競技(千葉) 成年女子100m 第8位 東北地区大学総合体育大会陸上競技 女子100m, 200m 優勝 他
3	宮 谷 理 恵	保健学科・4年	第69回全日本医歯薬獣医大学対抗陸上競技選手権大会 女子砲丸投げ優勝, 女子槍投げで第2位
4	中 田 隼 太	理工・4年	第80回全東北学生競技ダンス選手権大会 団体戦 スローフォックストロット 優勝
5	石 井 みゆき	保健学科・4年	第80回全東北学生競技ダンス選手権大会 団体戦 スローフォックストロット 優勝
6	大 川 崇 輝	農生・3年	第34回日本リバーベンチャー選手権大会の4メン中級の部で優勝
7	能登谷 巧	教育・4年	平成22年度東北学生柔道体重別選手権大会 男子73kg級 優勝
8	檜 山 雄 大	理工・3年	平成22年度東北国公立大学柔道大会 男子90kg級優勝
9	四茂野 恵 奈	医学科・5年	第40回北日本医科系学生バドミントン選手権大会 女子ダブルス優勝 女子団体優勝 第53回東日本医科系学生総合体育大会バドミントン競技 女子団体優勝
10	山 内 理 紗	医学科・3年	第53回東日本医科系学生総合体育大会バドミントン競技 女子シングルス3位, 女子団体優勝
11	加 藤 瑞 貴	保健学科・2年	第40回北日本医科系学生バドミントン選手権大会 女子ダブルス優勝 女子団体優勝
12	高 林 杏 奈	医学科・2年	第53回東日本医科系学生総合大会 400m自由形優勝 100m バタフライ優勝 第45回北日本医科系学生水泳大会 200m自由形優勝 400m 自由形2位
13	藤 澤 佑 樹	教育・4年	平成22年度北東北大学野球2部春季リーグ戦 最優秀選手賞 首位打者 ベストナイン遊撃手部門 平成22年度北東北大学野球2部秋季リーグ戦 ベストナイン遊撃手部門

【個人】
課外活動で特に顕著な功績があった学生等
文化系課外活動

No	氏名	学部・学年	受賞理由
1	坂本真衣	教育・2年	第27回NHK全国大学放送コンテストアナウンス部門 優勝
2	伊藤友佳子	人文・2年	第27回NHK全国大学放送コンテストアナウンス部門 2位

研究活動で特に顕著な成果を挙げた学生等

No	学部・学年 氏名	受賞理由
1	医学部医学科6年 服部真也	・「骨・軟骨形成を伴う膀胱癌肉腫の1例」に関する研究を行い、第71回日本病理学会東北支部学術集会にて発表を行った。
2	医学部医学科6年 平井秀明	・「病理診断に苦慮した乳腺症型線維腺腫の1例」に関する研究を行い、第27回北日本病理研究会にて発表を行った。
3	医学部医学科6年 山上紗矢佳	・「尿管原発のMALTリンパ腫の一例」に関する研究を行い、第71回日本病理学会東北支部学術集会にて発表を行った。
4	理工学研究科 理工学専攻1年 上田真央	・平成22年9月25日(土)～26日(日)に開催された「平成22年度化学系学協会東北大会」(日本化学会東北支部他共催)において「Smectic E 相を示すアズレン誘導体の合成」の表題にて発表した研究成果に対して、優秀なポスターに贈られる優秀ポスター賞を受賞しました。
5	理工学研究科 理工学専攻1年 工藤俊	・平成22年9月25日(土)～26日(日)に開催された「平成22年度化学系学協会東北大会」(日本化学会東北支部他共催)において「カーボンナノチューブセグメント構築を目指した環状アセチレン化合物の合成」の表題にて発表した研究成果に対して、優秀なポスター発表に贈られる優秀ポスター賞を受賞しました。
6	理工学研究科博士前期課程 物質創成化学専攻1年 菊池実恵子	・「低分子芳香族化合物がカプセル化されたフルオロアルキル基含有アクリル酸オリゴマー/シリカナノコンポジットの調製とその耐熱性」に関するポスター発表に対して、2009年度色材協会研究発表会優秀ポスター賞を受賞
7	理工学研究科博士後期課程 機能創成科学専攻1年 後藤勇貴	・僅か2年間という短期間ではあるが、平成21年度において2報、平成22年度においては5報の学術論文を発表させている。これらの研究成果は関連する学会さらには関連分野からも高く評価されている。また、本学生はこれら極めて優れた研究成果に対して、昨年7月に米国で開催されたナノマテリアル関係の学会において英語による口頭発表を自らがを行い、さらに平成23年1月20日に日本学術振興会フッ素化学155委員会で講演依頼を受けている状況にもある。
8	農学生命科学研究科 修士課程1年 本間美保	・糸状菌の生産する新規物質の探索を行い、Deoxyneofusapyroneおよび、7-desmethyldeoxyneofusapyroneを新規抗生物質として単離し、Bioorg. Med.Chem.Lett誌(IF2.650)に筆頭著者として発表した。さらに、報告数数百を超える抗生物質Fengycinの構造に誤りを見出し、訂正した。

課外活動団体学外功労者への感謝状贈呈

平成 22 年度の課外活動団体学外功労者感謝状贈呈式が3月 14 日(月)に特別会議室で執り行われ、長内淳介氏に対し遠藤学長から感謝状が贈呈された。

贈呈理由は以下のとおりです。

長内氏は、平成 12 年より弘前大学剣道部師範に就任され、以来今日まで、東日本医科学生総合体育大会優勝を筆頭に多くの剣道大会において、上位入賞を果たすなど、剣道部の発展と強化に多大な尽力並びに貢献を果たしてきたため。

贈呈式終了後、遠藤学長と功労者及び顧問教員を交えて和やかに懇談が行われた。



V 編集後記

今年は年明けから、サッカー日本代表のアジアカップ優勝で日本全体が盛り上がりました。青森・弘前では弘前城築城400年の節目、東北新幹線新型車両「はやぶさ」のデビューと、これからさらに活気づいていくことでしょう。

さて、学園だより170号の特集は

3月号の恒例となっております「卒業・修了・退職にあたって」です。今年も、卒業・修了される学生、ご定年を迎える教職員の皆さまから原稿をお寄せいただきました。いただいた原稿から「学園だよりのいちファン」という一文を見つけた時は、編集委員としてこの上ない喜びでした。お忙しい中

ご協力いただきました執筆者の皆さまに、厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、卒業・修了される学生、退職される教職員の皆さまの今後の活躍を祈念いたします。

(M.N)

弘前大学生協2010年度環境活動報告

弘前大学生協は環境マネジメントシステムの導入で、事業活動や組合員活動の環境負荷軽減を推進しています。平成20年11月のK E S（環境マネジメントシステムスタンダード）の「ステップ1」の登録以降、平成21年度には「ステップ1」の認証を受けました。さらに今年度K E Sの内部監査員養成研修を行い、8人が資格を取得しました。現在は、内部監査員のトレーニングとステップ2の審査登録のための準備を進めています。

●平成21年と22年の取組比較（データは両年とも3月～翌年1月までの累計比較）

【レジ袋の利用枚数】（単位：枚）

	21年	22年	削減枚数
枚数	9,264	6,937	2,327

【割箸再利用のための回収数】（単位：本）

	21年	22年	回収増数
本数	118,596	69,142	▲49,454

【弁当容器の回収率】（単位：%）

	21年	22年	回収増率
回収率	69.3	78.8	+9.5pt



学生委員会による割箸回収の様子

弘前大学ご卒業をお喜び申し上げます

■生協出資金返還の手続きについて

ご卒業やご栄転などで弘前大学を後にする皆様に、これまでご出資していただいたこと、

沢山ご利用いただきましたことを深く感謝いたします。現在生協では、出資金の返還手続きのご案内をしています。まだ手続きをされていない方は、お忘れのないようお願い申し上げます。また、院への進学などで、引き続き組合員としてご加入いただく場合も身分変更手続きが必要です。

- ① 店舗で「出資金返還&身分変更申込用紙」に記入し手続きをお願いいたします。
- ② 出資金返還は振込となります。5月末まで有効な金融機関口座を申込書にご記入下さい
- ③ 3月末までの手続き者は、5月23日(月)付けでの振込による返還となります。

弘前大学オリジナル 日本酒「弘前大学」

平成22年度の金木農場産米から醸造された、「日本酒 弘前大学」の新酒が3月4日に発売されます。

柔らかくて温かみのある味で、とてもおいしいお酒です。をこれからのご活躍が期待される卒業生の皆様にも、いろいろな場面でご愛飲いただければ幸いです。



●日本酒「弘前大学」は下記店舗でお求めいただけます。
弘大生協サリジェ店 Tel 0172-34-4622



弘前大学 学園だより Vol.170

2011年3月発行

学園だよりに関するご意見がございましたら、
下記のアドレスまでお寄せ願います。
e-mail: jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp
弘前大学学務部学生課



国立大学法人 弘前大学 「学園だより」編集委員会

委員長

一戸とも子 (教育・学生委員会)

委員

平野 潔 (人文学部)
佐藤光輝 (教育学部)
松谷秀哉 (医学研究科)
中野 学 (保健学研究科)
任 皓駿 (理工学研究科)
藤田 隆 (農学生命科学部)
佐々木宣子 (学生課)
佐々木忠 (学生課)

印刷：ワタナベサービス株式会社